

石見銀山繁栄のお祈りの石碑

かつて龍昌寺があった場所は、今では舗装されていない道の終わりにある静かな林になっていて、その道の脇にあるたった 1 つのただの石碑が訪れた人々にその場所の輝かしい過去を思い起こさせるばかりです。石碑には「銀山大盛祈願道場碑」と刻まれています。これは、龍昌寺が採掘において実りある 1 年になるようお祈りを捧げる毎年恒例の儀式のために選ばれた 3 つの寺社の 1 つであったことを示しています。儀式は新年の 20 日目に行われ、龍昌寺、昆布山谷の佐毘売山神社、そして大森の町にある観世音寺を訪れてお祈りを行う代官（石見銀山における徳川幕府の代表者）が参加していました。これら 3 つの寺社が選ばれた理由ははっきりしていませんが、いずれも代官所からの最良を享受していたようです。曹洞禅寺である龍昌寺、神道の神社である佐毘売山神社、そして真言宗の寺であった観世音寺が選ばれたということは、出身地や社会的背景の両方において多様な住民がいた石見銀山の宗教的多様性を反映しているようにも見えます。